

2026 年 9 月 6 日(日) 神聖復活祭

《納谷理事長ご挨拶》

《人間と真実の生き方》

《世界平和の祈り》

《神聖復活の印》

《由佳先生ご法話》

皆さま、神聖復活祭にご参加くださいます、まことにありがとうございます。

例年どおり、今年もまた二部構成となっております、午前中には富士聖地において、み魂との交流とお浄め、そしてグローバルの祈り、迷いの世界の儀式をスタッフとともにさせていただきました。無事に終了いたしましたことをご報告させていただきます。

そのとき、私たちの亡くなられた人たち、ご家族、お子様たち、兄弟、同僚、法友、そして霊園に入られている多くのみ魂たちが、皆さま本当にまばゆい光、神そのものの姿でいらっしゃいました。

五井先生、大光明霊団、守護の神霊はもちろん、ご先祖様、そしてその先端には宇宙神もおられ、多くのみ魂たちが先導されて、そのお浄めと交流をさせていただきました。

そのとき、私が感じた『一人のみ魂のお話』を、少しお話しさせていただきます。

その方は、今生で生きているときには一切真理を知らず、亡くなった後は無になると考えるような、そういう生き方をされてきた魂です。亡くなられた瞬間、光に包まれたそうなんですけれども、その光と自分は全く関係ないという意識で存在していたような、そんな感覚を受けたんです。

でもある瞬間に、それがフッとすべて変わったようで、ある特殊な光に包まれた瞬間、その光は神々しい光であるとともに、何かすごく懐かしさや安心感をそのエネルギーから感じた。すごく崇高な光でありながらも、何かとても身近に感じるようなそのエネルギーに、ふと自分は委ね

ることができた。

委ねた瞬間に、フワーツとその光が自分の中に入ってきて、自分は本来神聖なんだということが、内側から溢れ出るように、すべての答えが湧いてきた。その瞬間、すべての光と自分は一つとなって進化へと導かれた。そのようなイメージが湧いてきたんです。

その次の日に、五井先生の本を読んでいたときに、こう書かれていました。亡くなった瞬間に、私たちは神界、天国に連れて行かれるわけではなく、今、今生の肉体を生きている中で、一部の自分は神界に、そして霊界に、そして肉体界に存在している、と。

でもその中で、自分の日々が感情想念に、そして我欲だけに巻き込まれて、そこばかり考えれば考えるほど、本来の神界にいる自分とは遠く離れた、重いところに存在してしまう。

私はその本を読んだときに、あのみ魂はそうだったのかなと思いました。その方が亡くなった瞬間、本来の自分のいる神界に繋がらずに、まだ離れたまま、そこには大きな距離があったんだらうと。

でも、その方がその後に知るのは、あの特別な光は、白光真宏会の会員の皆さまが組んでいた神聖復活の印の光だったんだ、と。肉体を持ちながらも、その特別な印を組むことによって、宇宙神の神界の光と肉体のエネルギーをブレンドして届けてくれた。

その光こそが、自分をそこに留めさせずに、本来の自分の神聖を目覚めさせてくれて、自分の本来の姿と、本来の行くべきところへ真っ直ぐに行けた。そのようなメッセージを、私は感じさせていただきました。

そのみ魂は、「自分は一人だけじゃない。そういうみ魂たちがたくさんいるから、私は今日この日を待ちに待っていた。この印を組んでくださった皆さまに感謝をしたい」と。

それと同時に、「今日行なわれる行事に、自分もできる限りのことを、上にいるみ魂として、どうか恩返しをさせてほしい。そして、こうやって救われる多くの命、み魂たちのために、自分も全力で皆さまとともに働きます」。そういうエネルギーを、すごく感じさせていただきました。

神聖復活祭と名前が変わって、神聖復活の印と本当にマッチして、こうやってまた地球上の平和と平安を、向こうの世界の方々と一緒に、私たちは今日この日、やらせていただく。

もちろん、私たちの愛する方々との交流、そこはただただ祝福であり、喜びであり、愛の交流ですが、それだけではなく、今年亡くなられた多くのみ魂たち、その方々をしっかりと上昇させてゆく。そういう本当にお役目として、今日この日があると感じております。

その中で、午前中に真妃先生がおっしゃられていたことは、「この儀式を通して、本当にみ魂たちの存在をすごく感じて、その多くのみ魂たちと一緒に浄めているのを、すごく強く感じました」と。

「今、この肉体界の肉体を持つ私たちと、天界に行かれた神々様、そして多くの救われたみ魂たちとともに一緒に行なうことによって、多くのみ魂たちが瞬時に浄められてゆく力を感じました」と。

だからこそ、今日、会の皆さまとともに、またグローバルの祈りを通して、午前中に作られた火種が、全国各地、世界中の会の皆さまの大きな光とエネルギーと祈りによって、もっと大きな力強い火となって、また大きな働きをされてゆくのだと確信しています。

また、里香先生がおっしゃられていたのは、「取りこぼされる命は一人として決していない」ということ。生と死を超えた命としての働きを私たちは行なわせていただき、宇宙のフィールドで命を働かせていただく瞬間を、私たちは今日の日に味わわせていただく。

もちろん、何度も繰り返しますが、私たちの愛する親類縁者の方々は、ただただ神々の光のまばゆい形で、私たちにたくさんの愛を注いでくださっている。

それを感じた後は、天と地が一体となって、しっかりと与えられた命の働きをし、それがまた人類・地球の未来の平和を作ってゆく。その『神聖復活の大作戦』の大成就へ、皆さまとともにまた歩んでまいりたいと思います。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

《縁あるすべてのみたまに感謝を送る》

《グローバルの祈り》

《感謝の祈り》

《昌美先生のご法話》

皆さま、ごきげんよう。

今日は富士聖地において、こうやって皆さま方と印を組み、そしていろいろなことを天から授けていただいた神聖復活の印の光のすごさを、皆さま方にお伝えしたいと思います。

やはり私一人で、自宅で印を組んでいるときよりは、会員の皆さま、そして大勢の方々と一体になって、心が一体になって組むということは、一人で組む力の本当に百倍、万倍の力を、逆にこちらの方がいただいているような気がいたします。

とても疲れ切って、随分私もいろいろな病を越えて、また元気になっておりますけれども、その皆さま方のご愛念から、光と印によって、私もまた元気に元通りになったような気がいたします。

皆さま方とともにこうやって印を、富士聖地において、またそれぞれの方々のお家の中や、それぞれのお集まりの中で組むということは、私たち、そして日本国だけではなく、この印のエネルギーは世界中に広がることのできるようになっていきます。

国境すべての壁を越えて、多くの人々、貧しい人々、悲しい人々、ご病気の人々、いろいろな問題を抱えた人々にも、光を送っております。

こうして肉体で生きていて、皆さま方とともに力を合わせて印を同時に組むということは、自分一人で組んでいるよりも、数百倍、数千倍のエネルギーを、多くの国々に、多くの人々に、多くの貧しい人々、多くの苦しんでいる人々に、光が行き渡っていることでございます。

会員の皆さま方がこうやって印を組むということは、自分では納得いかないような世界の状況があるかも知れませんが、五井先生の目から見れば、たくさんの苦しんでいる人々、そして悲しんでいる人々、戦争の中でどうしようもない立場に置かれている人々、いろんな人々のところに、皆さま方の印の光は届いております。

ですから皆さま方が、お家で何気なく「今日は印を組もう」と思われたときには、率先して組んでくださいませ。一回一回の印が多くの人々を救っております。

私はこうやって、皆さま方とともに印を組み続けながら、元気でまだ働き続けております。これもありがたいことだと思い、会員の皆さま方の

ご努力とご愛念のおかげだと思って、いつも感謝して一日一日を過ごしております。

今日もまた皆さま方とご一緒にできて、大変幸せに、元気でおります。これからもよろしく。またお会いしましょう。ごきげんよう。

《献花》

以上